

「アースデイとやま 2023」全体報告

アースデイとやま 2023 実行委員会一同

■はじめに

「アースデイとやま」は 1991 年以降富山県内各地で 5 月前後に毎年開催され、市民の手によるものとしては県内最大の環境啓発イベントとして、環境問題への取り組みや市民団体の連携についてさまざまな成果を上げてきました。2020 年、2021 年には新型コロナウイルス感染症への対応のため、これまで例のない秋期のオンライン開催の形での実施となりました。2022 年には例年通り、対面での開催となりましたが、例年よりもかなり小規模な開催となりました。2023 年はテーマを「それぞれの持続可能性」とし、まず例年の開催時期である春期に特別ワークショップ「本当に持続可能であるために」を開催しました。その後、2 年間行った秋期のオンライン開催も参考に、アースデイとやまにおいて初めての事例となる、秋期の対面開催を試みました。今年はこれまでの有力な複数の実行委員の離脱があり、これまで主要な対面開催の場であった富山市ファミリーパークを会場として使えなかったこともあり、非常に厳しい条件下での開催となりましたが、後述する高校生のボランティア参加などがあり、アースデイとやまの新たな幕開けを予感させるイベントとなりました。

アースデイとやま 2023

テーマ：「それぞれの持続可能性」

日 時：2023 年 10 月 1 日（日）10:00～16:00

場 所：富山城址公園（富山市本丸 1）

後 援：富山県、富山市、富山県教育委員会、富山市教育委員会、富山大学、富山県立大学、富山国際大学、富山短期大学、富山県生活協同組合連合会、（公財）とやま環境財団、富山大学生協同組合、とやま森づくりサポートセンター、（一社）環境市民プラットフォームとやま

ホームページ URL：<http://earthday-toyama.org>

このような例年とは異なる状況の中で作成に時間を費やしましたが、ここに本報告書を提出させていただきます。ご覧いただけると幸いに存じます。

■アースデイとやま 2023 のテーマについて

2023 年は、世界を席卷していた新型コロナウイルス感染症の猛威が国内で一段落した反面、ロシアによるウクライナ侵攻やイスラエル-ハマス戦争によって国際情勢が極めて悪化し、人類社会のさまざまな領域に多大な影響をもたらしました。国内でも経済の低迷や少子高齢化、統一教会やクマの大量出没など従来から存在していた様々な問題が顕在化し、大変な一年となりました。その中で社会全般の優先順位が徐々に変化し、環境への関心が相対的に低下しているような感さえあります。

しかしその一方で、地球規模に拡大した環境問題は今や待ったなしの状況下にあり、特に地球温暖化に代表される気候変動問題は、コロナ禍でいっそう分断の進んだ世界が改めて力を合わせ、乗り越えることが迫られています。日常生活や産業、生物多様性に大きな影響が及ぶ中、こうした問題を解決する国際間の足並みはあまり一致していません。私たちの求めているものは、グローバルな現状把握から自分たちが暮らしの中でできる身近な対策へと、少しずつ変わってきているように思われました。「持続可能性」は現代社会の最も重要なキーワードの一つになっていますが、この言

葉を地球全体のものとして捉えるだけではなく、より小規模な地域社会や、さらには私たちが日頃主体的に取り組んでいる活動そのものについて検証していくことで、初めてそれが私たち自身のものになるように思われます。今年のアースデイとやまに最もふさわしいものとして、前述のようにそのテーマを「それぞれの持続可能性」としました。また、このテーマを深めるために、例年の開催時期である5月末には特別ワークショップ「本当に持続可能であるために」を開催し、本来の主要行事である屋外でのフェスティバルは秋期の開催となりました。

■アースデイとやま 2023 実行委員会の運営体制、活動の経緯について

当実行委員会の活動を支える主力となる実行委員の顔ぶれは、しばらく大きな変化がありませんでしたが、今年度は実行委員会企画や会場の設計、当日の運営で大きな力を発揮していた複数の有力な実行委員が個人的な事情から実行委員会を離れてしまい、人員不足の元での準備となりました。

実行委員会の会合は16回開催され、第1回（2023年1月25日）～第5回（同年5月25日）まではすべてZOOMによるオンライン開催となりました。今年はコロナ禍でのオンライン開催が続いたことで3年間にわたり出展・出店者からの賛同金を含む出展・出店料が確保できておらず、財政的にも非常に厳しい状況下での準備となりました。また、例年の開催場所であった富山市ファミリーパークで開催することができず、新たな開催場所の確保にかなりの時間を要しました。最終的に経費などの点で有利であったことなどから富山城址公園での開催となりましたが、会場が非常に広く、多くの参加団体・個人を確保しなければ釣り合いが取れないことが、もう一つの問題点として浮上しました。そのため、出展・出店者の負担軽減のため当日売上金の10%の徴収を取りやめるなどの措置を行いましたが、コロナ化が続いた影響もあり、当初予定していた締切日（5月5日）には極めてわずかな出展・出展者しか確保できませんでした。

5月27日に特別ワークショップを開催した後も、第6回（6月15日）はオンラインで開催しましたが、第7回（7月11日）は新型コロナウイルス感染症の感染症法上の5類移行に伴い、富山県総合福祉会館（サンシップとやま）での対面開催となりました。その後、個人事業者の出展・出店料を例年の5000円から3000円に引き下げる、城址公園管理事務所のご協力の元、会場に隣接して実行委員会と出展・出店者専用の駐車スペースを確保するなどの試みを行いました。9月16日の最終締切の段階で、確保できた出展・出店者は22の団体・個人にとどまりました。出展・出店者説明会は9月23日にサンシップとやまで開催しています。

■特別ワークショップ「本当に持続可能であるために」について（図1、2）

2023年5月27日（土）に、今年のテーマで

アースデイとやま 2023

特別ワークショップ

「本当に持続可能であるために」

SDGsが唱えられて以来、「持続可能」という言葉が社会に満ちあふれるようになりました。でも、その中には単に流行に乗っただけのようなものもあるのではないのでしょうか。この世界が本当に持続可能であるとはどういうことで、何が必要なのかを、みんなと一緒に考えましょう。

5月27日（土） 13:00 開場

富山大学五福キャンパス 理学部多目的ホール
富山地方鉄道・市内電車 富山大学前行きに乗車 富山大学前で下車 徒歩10分
※裏面にキャンパスマップがあります。
※駐車場はございません。お越しになる際は、公共交通でお越しください。

お申し込み



基調講演

13:30～14:30

脱炭素社会実現に向けての
技術と社会と経済を巡る具体的諸問題
— 国際海運ゼロエミッション化を実例として —

国立研究開発法人 海洋研究開発機構 理事長
東京大学名誉教授
大和 裕幸先生



※基調講演の要旨と先生のプロフィールは、裏面をご覧ください。

ワークショップ

14:30～15:30

参加者の皆さんにそれぞれのグループで感想や意見を交換してもらい、大和先生への質問を取りまとめます。グループ・ディスカッションの後、各グループの代表者による発表と質問が行われます。最後に、大和先生が質問への回答と総括を行います。

主催 アースデイとやま 2023 実行委員会

お問い合わせ 076 - 445 - 6376（実行委員会委員長 横畑 泰志）

図1. 特別ワークショップチラシ表面

ある持続可能性の課題に関係する特別ワークショップ「本当に持続可能であるために」を開催しました。講師の国立研究開発法人海洋研究開発機構 (JAMSTEC) 理事長 大和浩幸先生は、ご専門の海運学の分野で、船舶の運行をゼロエミッション化するにあたりどのような問題が存在するかに高い問題意識を持っておられ、この特別講演会の講師としてふさわしい方でした。

アースデイとやま 2023 の本体行事の情報宣伝活動などを行いながらの準備であったため、この集会については学外での広範囲な宣伝を行うことができませんでした。会場となる富山大学五福キャンパス内でのポスター掲示、チラシ配布を集中的に行いましたが、実行委員以外の参加者は3名に留まりました。人員が不足する中で十分な宣伝活動を行えなかったことは、大きな反省点となりました。

■ ボランティアの確保について

実行委員とともにアースデイとやま会場の運営を担うボランティアの存在は、その開催にとって極めて重要な、不可欠の存在となっています。しかし、今年は例年多くのボランティアを派遣していただいている、富山大学ボランティアサークル MEETS の協力を得ることができませんでした。これは開催時期が富山大学の夏期休暇の直後にあたり、MEETS の内部でも連絡を取り合うことが難しかったことが一因として挙げられます。そのため、開催への直前期になっても社会人などの非常に少数のボランティアしか確保できておらず、開催に向けて大きな問題となりました。

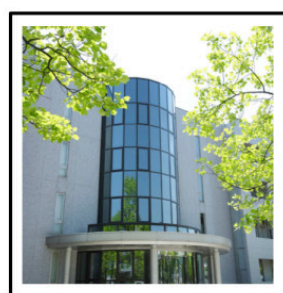
幸い、第12回実行委員会(8月21日)にアースデイ東京の参加経験があり、アースデイの活動に大きな関心を持つ高校生1名(富山国際大学附属高校3年 九里匠音さん)のオブザーバー参加があり、その後の実行委員としての参加にあたり多数の高校生ボランティアの紹介があり、最終的に13名(うち富山国際大学附属高校生8名)のボランティアが確保できました。1991年以來のア

大和 裕幸先生 基調講演要旨

いずれの産業分野においても脱炭素化のための努力がなされている。国際海運においても2050年までのゼロエミッション化を目指しているが、GHG(温室効果ガス)削減基準に国際的な合意が必要であること、船舶の機関や燃料技術が未確定であること、またステークホルダーも燃料会社や規制機関など、これまでになく多様である事などから、技術的社会的経済的に大変に難しい問題である。これまでの経済原則とは異なり、GHGは減少するものの、運賃の上昇やサービスの低下などで国民生活にも多大の影響を及ぼす取組が国民に理解され、合意を得て実行されるにはどうすればよいかを考えなくてはならない。本講演では数値シミュレーション等によって国際海運ゼロエミ化の具体像を示し、問題点を論じたい。

大和 裕幸先生 プロフィール

昭和29年5月 東京生まれ
昭和57年3月 東京大学大学院博士課程修了
昭和57年4月 科学技術庁航空宇宙技術研究所研究官
平成9年7月 東京大学大学院工学系研究科教授
平成25年4月 同 理事・副学長
平成28年4月 国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所理事長
令和2年10月 一般財団法人次世代環境船舶開発センター代表理事
令和4年4月 国立研究開発法人海洋研究開発機構理事長



理学部正面玄関

会場(多目的ホール)

多目的ホールに直接进入することはできません。
理学部正面玄関からお入りください。



図2. 特別ワークショップチラシ裏面

ースデイとやまの歴史の中でも、おそらくこれまでに高校生がアースデイとやまの当日ボランティアの主力になったことはなく、これまでにない動きとなりました。

■アースデイとやま 2023 の広報活動について

前述の準備活動の遅れは情報宣伝関係にも及び、8月中旬に主に A3 サイズの小型の版が関係者に配布されました。^{おもて}表面に同じ図案を用いたチラシの配布開始も8月中旬で、関連団体が開催するイベントの参加者や教育機関などに配布しています。ポスターは印刷経費の節減のため例年と異なり白黒で作成し、アースデイとやまホームページ (<http://earthday-toyama.org>) にリンクする QR コードを印刷しました(図3)。このホームページでは、それぞれの出展・出店者の紹介コーナー (<http://earthday-toyama.org/exhibitor.html>) を新設し、これまでと同様に Facebook のページも開設しました (<https://www.facebook.com/EarthdayToyama/>)。特に若い世代に対しては、ホームページや Facebook より、Instagram の訴求力・拡散力が強いということがわかってきました。実際に運用には至らなかったものの、来年度以降はその活用が検討課題となるでしょう

マスコミには基本情報の提供用のチラシを作成し、富山県庁内の県政記者クラブに棚入れを行い(9月27日)、当日の取材を促しましたが、直前の時期になったためか、当日は新聞社などの取材はありませんでした。

■アースデイとやま 2023 の当日の取り組みについて

「アースデイとやま 2023」は、2023 年 10 月 1 日(日)に開催されました。当日は前述のように 22 の団体・個人による出展・出店があり、初参加の団体も 4 件がありました。朝の準備と終了直前の一時的な小雨を除くと



と き: 2023 年 10 月 1 日(日) 10:00 ~ 16:00
と ころ: 富山城址公園(富山市本丸1)
主 催: アースデイとやま 2023 実行委員会

☺ 飲食ブース・出店あり ☺ 楽しいイベントたくさんあるよ!!

SDGs・アースデイに理解のある出店者募集中!!

お問合せ: 実行委員会事務局: 〒930-0143 富山県富山市西金屋 6717
富山市くれは山荘内 (Fax. 076-434-1316)

または実行委員長(横畑泰志、080-3045-1447、apply@earthday-toyama.org)

詳しくは随時ホームページ (<http://earthday-toyama.org>) で! →

後援: 富山県、富山市、富山県教育委員会、富山市教育委員会、富山大学、富山県立大学、富山国際大学、富山短期大学、富山県生活協同組合連合会、(公財)とやま環境財団、富山大学生協同組合、とやまの森づくりサポートセンター、環境市民プラットフォームとやま



図3. アースデイとやま 2023 ポスター(チラシ表面も同一)



図4. ステージでの演奏(左)とテントの中の観客

天候にも恵まれ、予定通りの開催となりました。以下に、ステージ（図 4）でのプログラムを記します（♪は音楽演奏）。

- ・ 10：00～10：05 オープニング 横畑泰志さん（アースデイとやま 2023 実行委員長）あいさつ
- ・ 10：05～10：30 ♪谷中秀治さん（コントラバス・ソロ）
- ・ 10：30～11：00 ♪岡崎蓮次郎さん（エレアコ）
- ・ 11：00～11：40 ♪渋谷カオリ&愛古筝ループさん（中国歌謡、中国古筝演奏）
- ・ 11：40～12：10 ♪トロッコさん（アコースティックポップ）
- ・ 12：10～12：40 アースデイ・トーク「SDG への新しい視点」
ゲスト 堺 勇人さん（環境市民プラットフォームとやま）
ホスト ① 九里匠音さん（富山国際大学付属高校、アースデイとやま 2023 実行委員）
② 横山寛明さん（富山大学大学院、アースデイとやま 2023 実行委員）
- ・ 12：40～13：30 ♪今村つばさアコースティック（今村つばさ、硯象（kenzo）、谷中秀治、ロケットまきの）さん（アコースティック）
- ・ 13：30～14：00 ♪マリオと楽しい仲間たちさん（ギター、歌、セッション）
- ・ 14：00～14：30 ♪高谷美也子蝶々&のほほん♡ベリーさん（ベリーダンス）
- ・ 14：30～15：00 ♪てくてくさん（アコースティック）
- ・ 15：00～15：30 ♪Hide Yidakijapan さん（ディジュリドゥ演奏）
- ・ 15：30～16：00 ♪AVOUDE（アヴデ）さん（アフリカンパーカッション）～閉会あいさつ

例年は 3 つのトークセッションを設けることが多いのですが、開放的なイベントでは来場者が長時間集中して聴くことが難しいといった問題が従来から指摘されており、今年は担当実行委員の努力により多数の音楽演奏者が確保できたこともあって、トークをテーマ「それぞれの持続可能性」に絞った 1 つに絞り、アースデイとやまが母体となって発足した「環境市民プラットフォームとやま」（PEC とやま）の事務局長である堺 勇人さんをゲストとしてお迎えしました。堺さんには、SDGs の有名な 17 目標のそれぞれの下に位置づけられている合計 169 のターゲット（例えば、<https://imacocollabo.or.jp/about-sdgs/17goals/>）についてわかりやすく説明していただき、2 名の若いホスト役もそれぞれに日頃の活動や大学院での環境に関する研究テーマについて語り、有意義なトークとなりました。出展・出店者などのテントへの、SDGs 17 目標のラベリング（掲示）も、例年通り行いました（図 5、6）。



図 5. SDGs17 目標ラベリングの例

■参加者数について

オンライン開催の場合を除く、近年のアースデイとやまの一般参加者数は、富山市ファミリーパーク無料ゾーンを会場としてきたことから、有料ゾーンの来場者数（参加者数の最大推定値と解釈される）と無料ゾーンの来場者数（参加者数の最小推定値と解釈される）の中間の値を取って推定されてきました。2019 年においては有料ゾーン（3,600 人）と無料ゾーン（1,271 人）の来場者数から 2,500 人前後、2022 年は前者（2,786 人）と後者（826 人）から概ね 1,800 人と推定しています。こうした一般来場者数には、イベントの内容や情報宣伝活動の他に、天候や同じ日に開催され

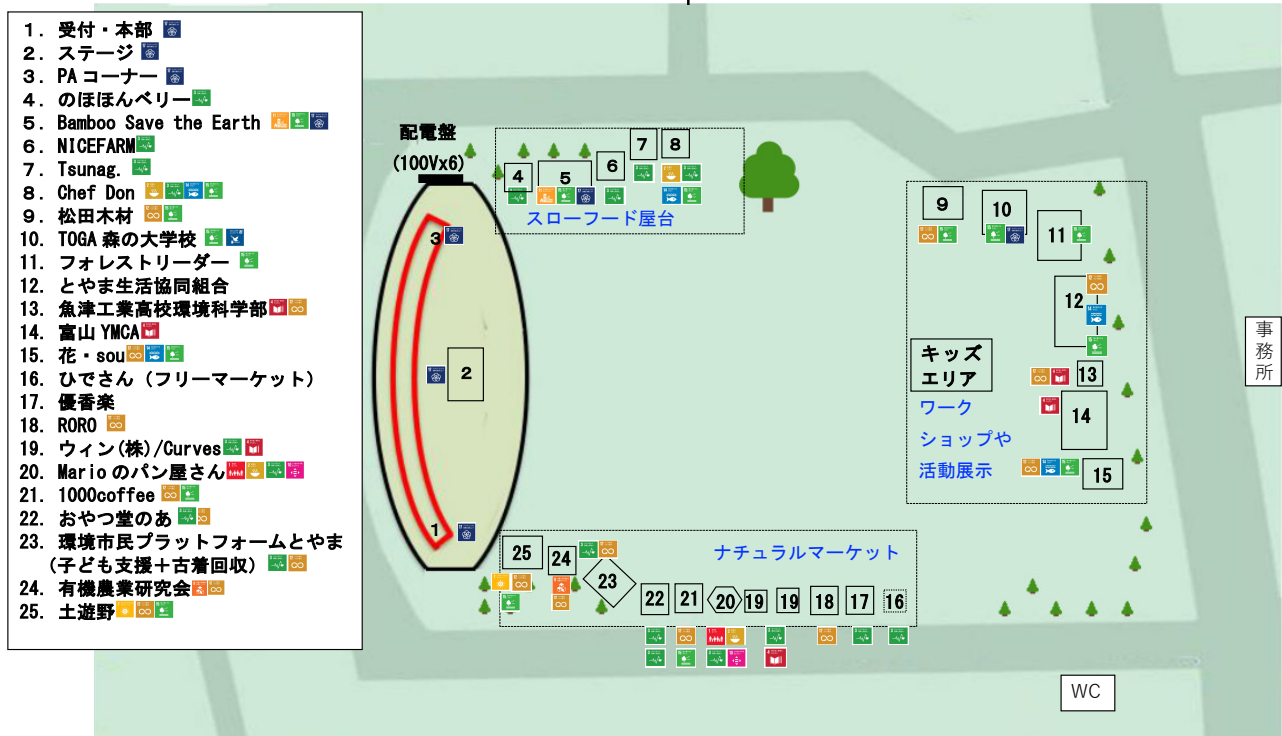


図 6. アースデイとやま 2023 会場配置図 (ラベリングされた SDGs17 目標のアイコンを表記)

る他の行事の影響などの外部要因が影響します。今年はこれまでのような根拠になる数字が得られないことが予想されたので、写真撮影による来場者数の推定を行いました。

方法としては、アースデイとやま 2023 の会場において、11 時 10 分、12 時 10 分、13 時 15 分、14 時 15 分、15 時 15 分の 5 回、受付・本部テントの位置 (図 6 の番号 1) からステージの方向 (図 7 (a))、反対側にある公園事務所の方向 (図 7 (b))、飲食テントの方向 (図 7 (c)) に向けて、ほぼ 1 時間おきに 3 枚ずつ写真を撮影し、重複を避けながら写っている人数を数えて合計しました。写真を撮るたびに人数が少しずつ違うので、同じ写真を 5 回数えて平均値を



(a) 本部テントからステージ～スローフード屋台 (図 4 の広角)



(b) 本部テントから会場中心部



(c) 本部テントからナチュラルマーケット

図 7. 参加者数の推定のために撮影された会場の風景の例

算出し、さらに写真上で前後に重なったり、物陰などの死角に隠れたりしている人数を補正するために、直感的ですが1.2を乗じました。

それらの写真を拡大して写っている人数を数えると、11時10分が85.0人、12時10分が81.6人、13時15分、14時15分が共に93.4人、15時15分が93.8人となり、平均すると89.44人が会場にいたことになります。

アースデイとやまの来場者の平均滞在時間は、2008年（富山大学）と2009年（富山灌水公園）のアンケート調査ではそれぞれ139.3分、153.2分となっており、会場もテーマも天候（2009年は雨天）も異なるにも関わらず、大きな違いはありません。そこでおよその滞在時間を150分とすると、今回は6時間でしたので、 $360/150$ で平均2.4回来場者が入れ替わっています。そこで、

$$89.44 \text{ 人} \times 1.2 \times 2.4 = 257.6 \text{ 人}$$

が今年の推定来場者数となりました。例年よりも少ない値になりますが、会場で来場者数を直接数えているので、こちらのほうが正確であると考えられます。問題点としては、一般来場者よりも滞在時間が長いはずの実行委員やボランティア、出展・出店者を含めて数えている点で、仮にそれらを区別したとすると、入れ替わり回数が少ない集団を含むことになるため、推定値はさらに下がります。

■アースデイとやま2023の反省点と今後の展望について

アースデイとやま2023の開催直後から、出展・出店者を対象にしたアンケート調査を行い、開催の時期、時間帯、場所、出展・出店者の募集期間、関係者が連絡を取り合う方法などに関する意見を集約しました。12件の回答が寄せられ、その中で、特に出展・出店者の募集期間については「期間全体が、もう半月ほど早い方が良い」、「準備があるので締切はもっと早いほうが良かった」という声が多く寄せられました。連絡を取り合う方法は、現在は主に電子メール（実行委員と主要な出展・出店者共通のメーリングリストを構築）を使っていますが、LINEやFacebookのメッセージ機能も用いてはという声が多く寄せられています。また、2023年10月31日（火）に実行委員が対面とオンラインで、11月4日（土）に実行委員とボランティアが対面で集まり、反省会を行いました。これまでに述べた準備段階での遅れに加えて、開催時期や内容などについて数多くの反省点が挙げられました。

アースデイとやま2023は、準備開始当初から人員の不足が大きな課題となり、その背景には実行委員の全体的な高齢化がありました。さらに財政的な課題や開催場所の確保といった問題があり、それに加えて人員不足の元で特別ワークショップを行ったため、それらが準備の遅れの原因となったことは否めません。出展・出店者数も来場者数も少なく、反省点の多いアースデイとやま2023でしたが、その中でこの行事を辛うじて開催に導くことができたのは、数少ないこれまでの実行委員の責任感と尽力、途中から参入した若い実行委員・ボランティアの協力があってに他なりません。

上述の反省会の最後に、来年はアースデイとやまの開催を前提とした実行委員会の前に、そのあり方を根底から見直す検討会を行うことになりました。その後、そのような検討会を2度開催しましたが、1991年から毎年絶えることなく続いてきた、全国のアースデイの中でも数少ない歴史を有するこの行事を休止しようという意見は少なく、2024年度開催につなげていくための実質的

な準備会となりました。本報告書を執筆している現在（2024年1月中旬）、既にアースデイとやま2024実行委員会が3回目の会合を行い、実行委員長、事務局長など主要な役員を刷新し、若い実行委員の参加のもとで、タイムスケジュールを定めた上で繰り返し確認し、会場と開催時期を優先的に決定し、LINEを活用するといった手法で、新しいアースデイとやまの開催に向けた準備が着々と進んでいます。

■アースデイとやま 2023 の会計報告について

最後に、アースデイとやま 2023 の収支（表 1）について述べます。

3 年間にわたる新型コロナウイルス感染症の影響によるオンライン開催の影響で、今年度は当初から緊縮的な予算を組んでいました。昨年度からの繰越金は、16 万 6 千円ほどでした。収入については 16 万円ほどの予算額でしたが、昨年、一昨年同様に富山大学生協からの賛同金がなく、出展・出店者の参加登録料、実行委員などからの一般賛同金を含めても実際には 12 万円ほどにとどまりました。しかし、一方で支出も大きく抑えられ、特にポスター・チラシの作成に関わる経費を大きく削減しています。また、従来実行委員会からの補助を行っていた反省会（打ち上げ会）を簡素化し、参加者の負担のみで行っています。それらの結果、総支出額は 22 万 4 千円ほどとなりました。繰越金は 6 万円ほどとなり、来年度の通常の形態での開催には窮屈な金額となりました。会計監査においても、問題のないことが確認されました（監査報告書は省略）。

表 1. アースデイとやま 2023 収支（左：収入の部；右：支出の部；2023 年 12 月 9 日現在）

	収 入	予算	2023実績
賛同金	参加登録料	135,000	66,000
	一般賛同金	15,000	36,000
	富山県生協連合会 後援料	10,000	10,000
	賛同金 みどり共同購入会	3,000	0
	■小計	163,000	112,000
当日収入	備品貸し出し代金	0	6,890
	■小計	0	6,890
雑収入	反省会 参加費	0	0
		0	0
	■小計	0	0
合計		163,000	118,890
	前年繰越金	165,779	165,779
総合計		328,779	284,669

	支 出	予算	2023実績
事務局経費	通信費	4,000	2,168
	事務消耗品費	2,000	1,600
	事務印刷・コピー費	1,000	1,400
	反省会	0	0
	■小計	7,000	5,168
広告宣伝費	ポスター印刷代	5,000	5,000
	チラシ印刷代	4,000	4,000
	ポスターデザイン謝礼	0	4,000
	ホームページ管理費	2,000	1,925
	■小計	11,000	14,925
当日運営費	当日保険料	1,000	9,000
	ボランティアスタッフ飲料・チケット	24,000	17,912
	テント・机・イス等備品レンタル	80,000	67,740
	車両運搬費	15,000	11,000
	会場費・電源使用料	0	14,300
	■小計	120,000	119,952
実行委員会企画	事前説明会 会場費・備品代	0	11,830
	企画関係補助（SDGs ラベリング）	5,000	1,162
	特別ワークショップ謝礼・会場費	0	58,275
	■小計	5,000	71,267
雑費	振り込み手数料	1,000	2,310
	音響機材 貸し出し謝礼	5,000	10,000
	■小計	6,000	12,310
合計		149,000	223,622
	翌年度繰越	179,779	61,047
総合計		328,779	284,669